解答速報 英語

医学部受験専門予備校 慧修会

2022 年度　東京慈恵会医科大学

【 講 評 】

長文読解問題３題からなり、大問１と大問３が空所補充問題、単語の意味の選択問題、そして、内容一致問題から成る総合問題で、大問２が空所補充問題のみという形式であった。これは 2020 年度と 2021 年度と同じ形式である。ただし、2020 年度と 2021 年度は、大問１の中で、自由英作文が出題されていたが、今年度は大問３の中で自由英作文が出題されていた。単語の意味の選択問題の中には、選択肢の単語が難しく、単語問題として無理があるように思えるものがある。また、内容一致問題の中には、選択肢の表現の微妙な違いを見落とすと正解できないものもある。しかし、全体としては、問題文の趣旨が理解できていれば正解できる設問が多かった。

【 解 答 ・ 解 説 】

大問Ⅰ

問１．(A) ４
(B) ３
(C) ４
(D) １
(E) ２
(F) ３

(A)：A physician named John Snow working in London in the mid 19th century is generally (　A　) as being the father of epidemiology.
「19 世紀半ばにロンドンで活動していたジョン・スノーという名の医者は、一般的に、疫学の父であると(　A　)されている。」
空所(A)の直後の as は[being the father of epidemiology]という動名詞句を伴っているので、前置詞「～として」である。前置詞 as とのつながりで各選択肢の動詞の意味を確認すると、
1. certify A as B「A を B だと正式に認定する、認証する」
2. promote A as B「A を B だと宣伝する、推奨する」
3. approve A as B「(組織が) A を B だとして正式に承認する」
4. credit A as B「A を B だと評価する、信じる」

空所の(A)の直前に generally「一般的に」とあるように、一般の評価のことを言っているので、正式な評価のことを述べる１や３は不可。４がよい。

(B)：It is most often contracted by ingesting food or water (　B　) with feces containing the bacteria.

「それ(=コレラ)は、ほとんどの場合、コレラ菌を含む排泄物で(　B　)食べ物や水を体内に摂取することで感染する。」

空所の直後に前置詞 with がある。空所の前後に前置詞がある場合は、前置詞とのコロケーションを確認すべきである。選択肢の中で with と対応するのは、filled with～「～に満ちた」と tainted with～「～で汚染された」である。『feces（「排泄物」）に満ちた食べ物や水』というのはおかしい。（想像しただけで気持ち悪いですね。）したがって、答えは tainted ですが、feces がわからないと決定打はないし、そもそも、選択肢３の taint「～を汚染する」を知っていた受験生もどれほどいるかは疑問である。ちなみに、「～を汚染する」を意味する動詞としては、contaminate, pollute はぜひ覚えておきたい単語である。

(C)：A few doctors (　C　) that cholera might be caused by bacteria.

「少数の医者は、コレラが細菌によって引き起こされるかもしれないと(　C　)」

後の逆接の文 However, since doctors who treated cholera patients did not catch the disease, it was assumed that cholera was not contagious and, thus, not caused by bacteria.（「しかし、コレラ患者を治療していた医者がコレラに罹らなかったので、コレラは伝染性のものではなく、したがって、細菌によって引き起こされるものではないと思われていた。」）との対比的内容になるはずなので、(C)を含む文は、「少数の医者は、コレラが細菌によって引き起こされるかもしれないと思っていた。」といった内容になるべきである。

選択肢の単語の意味を確認すると

1. challenge 「～の正当性を疑う、～に異議を唱える」(that 節を伴うことはまれ)
2. doubt「～の正当性、真実性が疑わしいと思う、～でないと思う」
3. confirm「（証拠を示して）~確認する、～を裏付ける」
4. suspect「（明確な証拠はないが）～と思う・気づく、～ではないかと疑う」

（(注）選択肢はすべて過去形になっている）

である。

「コレラが細菌によって引き起こされるかもしれない」という考えを肯定する意味になるのは、confirm か suspect だが、However 以下との関係から、証拠が挙げられていないことは明らかであるので、confirm「（証拠を示して）~確認する、～を裏付ける」はダメ。

(D)：He noted that it infected the intestines rather than the lunges, so it was (　D　) that bad air was the culprit.

「コレラは肺ではなくむしろ腸に感染するので、毒気が原因ということは(　D　)と述べた。」

so が「そういうわけで、だから」なので、so の前後の因果関係から答えを考える。

「コレラは肺ではなくむしろ腸に感染する」（原因・理由）→「毒気が原因だということはありそうもない」（結果・結論）となるべきであろう。したがって、unlikely を選ぶ。

(E)：The cholera outbreak ended shortly afterward, although Snow himself was uncertain whether the removal of the pump handle was the reason or if the outbreak was already (　E　) naturally.

「コレラの流行は、その後すぐ収まった。スノー自身は、給水ポンプの取手を外したことがコレラが収まった理由なのか、それとも、コレラの流行が、すでに、自然に(　E　)かは、わからなかったが。」

1. belittle 「～を軽視する、～を小さく見せる」
2. subside 「(騒ぎ、感情、症状が)徐々に収まる、治まる」
3. descend「降りる、(子孫に) 伝わる」
4. fall「落ちる、落下する、ころぶ」

(注) 選択肢はすべて現在分詞形になっている)

話題が「コレラの収束」なので、subside がよい。

(F) : He looked the health records of two otherwise (　F　) London neighborhoods that were served by different water companies.

「彼は、異なる水道会社によって水が供給されているという点以外では(　F　)ロンドンの２つの地区の健康面の記録を調べた。」

[otherwise+形容詞+名詞]は、「その他の点では形容詞な名詞/ もしそうでなければ形容詞な名詞」という意味である。

Ex. He was drunk and behaved badly, which ruined the otherwise pleasant party.

「 彼は酔って、見苦しい行動をとった。それによって、*その他の点では/*もしそうでなかったら楽しかったパーティーを台無しにした。」

*「その他の点では＝彼が酔っ払って、見苦しい行動をとったという点以外では」

*「もしそうでなかったら＝彼が酔っ払って、見苦しい行動をとらなければ」

問題文の otherwise は「その他の点では」という意味で、具体的には、「異なる水道会社によって水が供給されているという点以外では」の意味。(F)には、otherwise が修飾する形容詞が入るが、「水道会社が異なるという点以外では」が修飾する語としては similar (「似ている」) が最も適切であろう。つまり、「飲み水以外の条件が同じ２つの地域」を調べることによって、飲み水とコレラの関係を調べたのである。

問２．　３

設問「どの答えが、epidemiology の最も適切な説明をしていますか？」

選択肢　1. 「伝染病(infectious diseases)の感染者の人口形態と統計的数値の研究」
　　2. 「病の感染の証拠の研究」
　　3. 「人々の集団内での病の広がり方の研究」
　　4. 「病の感染を予測し防止するための統計的データの使い方の研究」

epidemiology の説明は、第１段落にある。

第１段落第１文 : The study of the frequency and distribution of disease in *population is called epidemiology.

「住民内の病の発生頻度と分布の研究は epidemiology と呼ばれている。」

*population：「一定の地域内に生息する同種の生物の個体数や個体群」を意味する。人間の場合は、「(一定の地域の）人口」や「(一定の地域の)住民」という意味になる。本文では「(一定の地域の)住民」

第１段落第２文：It involves examining data about populations of patients to find patterns of illness that can help identify the cause of a disease.

「それ（epidemiology）は、病の原因の特定に役立つような病のパターンを知るために、一定の地域の患者についてのデータを調べることを含む。」

この２つを読むと、選択肢１と３の両方が正しいように思える。ただし、選択肢１は、研究の対象となる病を「伝染病」（infection diseases）としている。しかし、第１段落第１文と第２文の説明では、単に「病」(disease)と言っており、伝染病とは言っていない。したがって、選択肢３が正解として最も適切である。２つの選択肢で迷った場合には、選択肢同士でどこが違うのかを、正確に見極めることが必要である。ちなみに、epidemiology「疫学」は医学部の英語が扱う英文では頻度が高いので、ぜひ覚えておこう。

問３．　２

設問「ジョン・スノーが研究を行っていた当時、コレラについてどのようなことが一般に信じられていたか？」

選択肢　1. コレラは、汚い空気や毒気を生む混雑が原因の伝染病である。
2. コレラは、悪臭を放つ空気や不衛生な環境によって広められる非細菌性の病である。
3. コレラは、細菌を含んだ汚染された水との接触が原因で罹る病である。
4. コレラは、感染症に罹った後に生じる肺の汚染である。

ジョン・スノーが研究を行っていた当時の様子の説明は第３段落にある。その中で、~ but the most popular theory was that it was caused by miasma, or bad air, that came from people living close together in dirty conditions.（「最も広まっていた説は、コレラは、汚い環境で人々が密集して生活することから生じる毒気、つまり、汚い空気によって引き起こされるという説であった。」）という記述がある。そして、第３段落最終文では、～it was assumed that cholera was not contagious and, thus, not caused by bacteria（「コレラは伝染性のものではなく、したがって、細菌によって引き起こされるものではないと思われていた。」）と述べられている。この２文をまとめたものが選択肢２である。問題文の miasma「毒気」や、選択肢２の putrid「悪臭を放つ」は受験生の語彙を超えている単語かもしれないが、「当時は、コレラは汚い空気が原因で生じる病であり、伝染病ではないと思われていた」という趣旨がわかれば、選択肢２以外は解答として除外できるはずである。

問４．　１

設問「なぜ医者たちは、コレラが細菌以外のものによって引き起こされると考えたのか？」

選択肢　1. コレラは濃厚接触を通して感染する可能性があるようには思えなかった。

2. コレラは患者の肺に感染するようには思えなかった。
3. 細菌は腸に感染することがあるということがわかっていなかった。
4. コレラは主に人々が密集して生活することによって感染していた。

第３段落最終文で、However, since doctors who treated cholera patients did not catch the disease, it was assumed that cholera was not contagious and, thus, not caused by bacteria.（「しかし、コレラ患者を治療していた医者たちが、コレラに罹らなかったため、コレラは伝染性のものではなく、したがって、細菌によって引き起こされるものではないと思われていた。」）と書かれているように、「患者と接触していた医者が、コレラに罹らなかったので、これらは伝染病ではないと思われた」ことが、「コレラが細菌以外のものによって引き起こされる」と考えられた理由である

問５．　３

設問「プロード・ストリートでのコレラの流行についてのジョン・スノーの推論はどんなものだったか？」

選択肢　1. それは、給水ポンプから取手を外すことでくい止められた。
2. この流行の感染者は、全員、同じ地域に集まっていた。
3. 伝染は、市の飲料水の供給を通して生じた。
4. コレラは、汚い生活環境の原因でもなく、毒気の原因でもなかった。

プロード・ストリートのコレラの流行については、第４段落に書かれている。第４段落の第４文と第５文に、Most people in London got their water from public water pumps.　Snow inspected the water from the Broad Street pump～（「ロンドンのほとんどの人が、公共の給水ポンプから水を手に入れていた。スノーは、ブロード・ストリートの給水ポンプの水を調べてみた。」）とある。この記述から、「ブロード・ストリートの給水ポンプの水を飲んだことが、人々がコレラに感染した原因である」とスノーが推測していたことがわかる。ちなみに、選択肢４の Cholera was the cause of neither dirty living conditions nor miasma.は、因果関係が逆であり、Neither dirty living conditions nor miasma was the cause of Cholera なら、スノーの考えと一致する。

問６．　３

設問「コレラの流行についての自分の以前からの説が正しいとジョン・スノーに確信させたのは何か？」

選択肢　1. プロード・ストリートの水の調査が、細菌の存在を証明した。
2. 壊れた汚水槽の発見が、コレラ菌の出所の証拠となった。
3. コレラの感染者全員が、同じ水源のから水を手に入れていたとわかった。
4. 取手を給水ポンプからはずしたすぐ後に、この流行は収束した。

第５段落第１文に、To Snow, this was conclusive evidence.（「スノーにとって、これが決定的証拠だった。」）とある。したがって、this が指す内容が、ジョン・スノーに自分の説の正しさを確信させたことである。第４段落の最後の２つの文で「コレラの感染者のほとんど全員が、プロード・ストリートの給水ポンプの周辺で生活しており、別のポンプに近くで生活していたものも、プロード・ストリートの給水ポンプを利用していたことがわかった。」と述べている。this はこの内容を指しているので、選択肢３が正解である。

問７．　１

設問「水質が病の危険因子であることをジョン・スノーがどのようにして立証したか？」

選択肢　1. 彼は、きれいな水がある地域ときれいな水がない地域の間でのコレラの罹患率を比べた。
2. 彼は、上流の水がロンドン中央の水よりきれいであることを証明した。
3. 彼は、より多くの下水を含む水が、この疫病を引き起こしている細菌を多く含んでいると判断した。
4. 彼は、テムズ川の中流の汚い水はコレラの発生源だと指摘した。

第６段落の第１文で、Snow was also able to show that having clean water was important for preventing cholera when he conducted a study that he called the Grand Experiment.（「スノーは、また、自分で the Grand Experiment と呼んだ研究を行った時に、きれいな水を手にすることがコレラを予防するために重要であるということを示すことができた。」）と述べている。また、第６段落最終文でも、Snow's analysis showed that the people who got their water from the dirty part of the Thames had a higher incidence of cholera.（「スノーのこの分析（=the Grand Experiment の分析）は、テムズ川の汚い水域から水を手に入れた人々は、コレラの発生率が高いと示した。」）とある。これらの２文から、スノーは、この the Grand Experiment を行い、分析することで「水質がコレラの危険因子であること」を証明したということになる。the Grand Experiment の具体的な内容は、第６段落の第２文～第４文に書かれているが、「水がきれいなテムズ川上流の水が供給される地域と、下水が多いロンドン中部のテムズ川の水が供給される地域を比べた」というものである。従って、選択肢１が正解ということになる。

大問Ⅱ

Ａ．　３

After receiving the advice, they rated its value: [　A　] solve problems and gain useful referrals?
「その助言を受けた後、彼ら（重役たち）は、その助言の価値を評価した。問題を解決し、役に立つ人を紹介してもらう[　A　]。」

第２段落は、第２文以降が、レビンが行った過去の実験の説明になっている。したがって、[A]を含む文も過去時制の文と考えるべきだろう。選択肢で過去時制になっているのは３だけなので、選択肢３が正解である。選択肢３を[A]に入れると、

[to what extent] did it(S) help(V) them(O) [solve problems and gain useful referrals](C)?

「どの程度、それ（＝その助言）が、彼らが問題を解決し、有益な人脈を得るのに役立ったか？」）

となり、コロン（：）の前にある、its value（「その助言の価値」）の具体的な内容と言えるので、内容的にも適した選択肢と言える。

Ｂ．　２

Dormant ties offer the access to novel information that weak ties [　B　].で始まるこの段落の内容を確認すると、

第２文：交流を一時的に止めていた人との関係を再開するのは、ゼロから関係を作るのとは違う。

第３文：この関係を再開すると、信頼感（feelings of trust）がある。

第４文：安心感を覚える（feel comfortable）。

第５文：相手の意図を推測する必要がない。

第６文：会話をスムーズにできる相互の信頼がある

第７文：すでに共通の土台がある

第８文：結びつきが弱い人との人間関係とちがって、交流を一時的に止めていた知り合いとは、人間関係を一から作り直す必要がない。

となっている。

これをまとめると、この段落は、「dormant ties（交流を一時的に止めていた知り合いとの関係）は、weak ties(結びつきが弱い人との関係)と違って、関係をゼロから作る必要はなく、信頼し、安心してやり取りできる関係だ」ということを説明している段落ということになる。この内容に合うように[B]に当てはまる選択肢を考えると、適切な選択肢は２しかない。

Dormant ties offer the access to novel information that weak ties afford, but without the discomfort.

「一時的に交流を止めていた知り合いとの関係は、結びつきが弱い人が与えるような新しい情報を入手させてくれるが、（結びつきが弱い人との関係のような）不安感はないのである。」

ちなみに、dormant ties の dormant は「休止状態の」という意味で、dormant ties は、「休止中の絆→しばらく交流を止めている状態になっている知り合いとの関係」という意味である。また、選択肢２の中の afford は、「与える」という意味。can afford～に「～にお金（または時間）を割く余裕がある」という意味があるが、その場合は can と共起する。

Ｃ．　１

When we need new information, we may [　C　], but we have a large pool of dormant ties that prove to be helpful.

「新しい情報が必要な時には、[　C　]かもしれないが、しばらく連絡をとっていなかった知り合いとの関係は多くあり、それが結局は役に立つのである。」

この文は but で結ばれているので、we may [　C　]と we have～が対立的な意味になるはずである。選択肢１と入れると、we may run out weak ties quickly, but we have a large pool of dormant ties（「結びつき弱い人との関係は（数が少なく）すぐに尽きてしまうが、一時的に交流を止めている知り合いとの関係は多くある」となり、対立関係が成立する。

D.　1

問題となっている文（The executive who groaned [　D　] it “has been eye-opening for me. ）の executive（「重役」）に the がついている。the＋単数名詞は、通例、文脈や常識で１つだけに決まる名詞なので、この executive は「文脈上一人だけに決まる重役」と考えるべきである。The executive に続く関係詞節内の groan は「不満を言う」という意味の単語だが、この文章で「不満を言った」重役は、第１段落の第３文でしか登場していない。

～ When one executive learned of the assignment, “ I groaned.～

「～ある重役は、その課題(=交流をやめていた知り合いとの交流を再開すること)について知ると、『私は不満を述べたのです。～』」）

この文から、この重役は、交流を止めていた知人との交流を再開することについて不満を言っていることがわかる。選択肢１を選ぶと、設問になっている文の the executive が、第１段落第３文の one executive を指すことになり、適切な文になる。

The executive [who groaned about reconnecting] admitted that it “has been ~

「再び連絡をとることについて不満を言ったあの重役は、『～だったと』と認めた。」

ちなみに、選択肢３は文法的にも不適切である。選択肢３を[D]に入れてみると、

The executive [who groaned] come to a final conclusion (that の省略) it “has been ~

となる。The executive を主語にする動詞は波線部の come になるが、The executive は３人称単数なので現在形なら comes でなければならない。

X.　Why would I want to reactivate them?
Why should I have to reactivate them?
What is the point in reactivating them?
など

ここに書かれている on executive の発言は、第１段落第２文、

For the past few years, these professors have been asking executives to do something that they dread: reactivate their dormant ties.

「過去数年間、これらの教授たちは、重役たちが嫌がるあることをするように求めてきた。つまり、交流を止めていた知り合いとの交流を開始することである。」

の to do something that they dread: reactive their dormant ties（「重役たちが嫌がること、つまり、交流を止めていた知り合いとの交流を開始すること」）に対する反応である。したがって、[X]には、「交流を再開などしたくない」という趣旨の発言が入るはずである。また、[X]の直前で、they are dormant for a reason, right?（「連絡を取るのを止めているのは理由があるからだろ？」）言っているので、[X]に入る発言は、「連絡を再開する理由などあろうか？」という趣旨の発言でもあるはずだ。この２つのことを考えると、解答に示したような文が入ることになる。

大問Ⅲ

問１　(1)：４
　　(2)：３
　　(3)：４
　　(4)：１

(1) : expend「～を費やす、消費する」は基本単語なので知識問題として解くことができるが、the costs that we have already expended will be wasted が、前の段落の our investment will have been wasted と同じ趣旨のことを述べているので、expend は invest「投資する」と同じような意味であることが推理できる。

(2) : oblige＋O＋toV～＝force/ compel＋O＋toV～「O に～するよう強いる、強制する」。feel obliged(または forced/ compelled) toV～は、「～しなくてはならないと感じる」

(3) : salvage「(海難船)を引き上げる、～を救済する、～を回収する」という単語は知っている受験生も多いのではないかと思われるが、ここでは、sunk cost（＝すでに使われて、取り戻すことができないコスト）に対する誤った考えの説明をしているので、We think that if we continue what we are doing we might still be able to salvage our earlier investment in time or money.（「もし、行っていることを続ければ、依然として、初期に投資した時間や金を salvage できるかもしれない、と私たちは考える。」）の salvage は、「取り戻す」とったような意味であることは明らかである。

(4) : finite（「限りのある、有限な」）は基本単語。動詞としては、選択肢１の limit も４の restrict も「～を制限する」という意味があるが、「限られた、少ない量の」という意味の形容詞として使えるのは limited だけである。なお、finite の反意語 infinite「無限の」も基本単語なので覚えておこう。

問２．　１

設問「本文によれば、a sunk cost（埋没費用）とは何か？」

選択肢　1. それは、使い果たされ、取り戻すことができないコストである。
　　2. それは、無駄に費やされた類のコストである。
　　3. それは、使ったことを後悔することになるような費用がかかるものである。
　　4. それは、予期せぬ様子で私たちに害を与えるコストである。

a sunk cost の定義は、第２段落第１文にある。

If something is a sunk cost, that means that it is gone and we can never get it back.

「何かが a sunk cost なら、それは、無くなってしまい、取り戻すことができないことを意味する。」

したがって、選択肢１が正解である。

問３．　４

設問「本文によれば、なぜ人々は埋没費用の誤謬に陥るのか？」

選択肢　1. 彼らは、埋没費用について考えると躊躇してしまい、その結果、活動を続ける。
2. 彼らは、すでに使った時間や金を取り戻せないとわかっている。
3. 彼らは、以前にどれほど多くの時間、努力、あるいは、金を使ったかに関心がない。
4. 彼らは、以前に使った時間や金を無駄にしたくない。

まず、「埋没費用の誤謬」の定義についての説明は、第１段落第２文、第３文と、第２段落第２文にある。

We don't want to stop doing what we are doing because then we will feel our investment will have been wasted.　This is called the sunk cost fallacy ~

「私たちは、やっていることを止めてしまえば、自分の投資が無駄になると感じて、やっていることを止めたくないと思う。これは、埋没費用の誤謬と呼ばれている。～」

The fallacy is the idea that if we discontinue the activity, then the costs that we have already expended will be wasted.

「間違っている点は、活動を止めれば、すでに費やしたコストが無駄になると考えることである。」

このことから、「埋没費用の誤謬」の根底には、費やしたコストを無駄にしたくないという気持ちがあることがわかる。したがって、選択肢４が正解である。ちなみに、選択肢１は、「埋没費用の誤謬」の「結果」であって、「理由」ではない。

問４．　２

設問「本文によれば、未来に何をすべきかを決める時に、埋没費用を考慮することが間違っているのはなぜですか？」

選択肢　1. なぜなら、ある活動を初めてしまったら、その活動を止めた場合に、結局、より多くの金が無駄になるかもしれないから。
2. なぜなら、ある活動を続けても、止めても、どちらも、すでにかかったコストを変えはしないから。
3. なぜなら、埋没費用は、すでに始まった計画を続けることによってのみ、取り戻すことができるから。
4. なぜなら、時間や金という面での未来のコストは、費やしたコスト全体ほど重要ではないから。

解答の根拠となる箇所は、第８段落第１文と第２文である。

The only way to avoid the sunk cost fallacy is to realize that the sunk cost is gone and can never be recovered.　We should not let it influence our future decisions.

「埋没費用の誤謬を避ける唯一の道は、埋没費用は、すでに消えており、決して取り戻せないということに気づくことである。埋没費用が将来の決定に影響を及ぼすことあってならない。」

この箇所から、「未来に何をすべきか決める時に、埋没費用を考慮すべきでない」ということの理由は、「将来何をしようとも、埋没費用自体は、すでに消えており、取り戻せないから」ということであることがわかる。それを言い換えたものが、選択肢２である。

問５．　３

設問「本文によれば、埋没費用の誤謬によって、有益である可能性がある計画を続けたり、止めたりすることについて、何がわかりますか？」

選択肢　1. 埋没費用を調べると、どんな計画がより成功しそうか、あるいは、失敗しそうかを予測することに役だつことがある。

2. 計画を続けるべきか否かを決める時には機会費用を無視すべきである。

3. 有望な計画は、それより価値がある計画に投資することの妨げとなることがある。

4. うまくいっている計画でさえ、未来に利益を与えそうもなければ、続ける価値はない。

第８段落第３文以下が、解答の根拠となる箇所である。

The sunk cost fallacy can even apply to projects that have potential value if the effort or money put into those projects are preventing us from doing something else that is even more worthwhile. This is known as an opportunity cost ― what better thing we could be doing with our time or money if we were not doing our current activity.

「埋没費用の誤謬は、価値を生む可能性がある計画にさえ、当てはまることがある。それは、その計画に注いだ努力や金が、それよりもさらに価値がある他のことをする妨げになる場合である。これは機会費用として知られるものだ。もし現在の活動を行っていなければ、それに費やしている時間や金で、それよりも価値があるどんなことをすることができているだろうか？」

この部分では、「有益である可能性がある計画に時間やお金をすでに割いているために、その計画にこだわって、それより価値がある計画を行うことができないことがある」という趣旨のことを述べている。この趣旨を言い換えたものが選択肢３である。

問６．　Pursuing a sunk cost that no longer appears beneficial can have a positive effect.　It can inspire you to persevere through the difficulties along the way to your goal.　And even if you fail in achieving the goal, your experience can be helpful later.　This is typically true for athletes whose goals are to win.　Suppose that a runner who has spent a lot of time training for a marathon race happens to be in bad shape on the day of the race.　In the middle of the race, he may feel sick and want to stop running. But thinking about how much time and effort he has put into his training may motivate him not to give

it up, and thus he may manage to cross the finish line. Even if he can't win the race, his experience of not giving up may give him much confidence, which may increase his chance of winning the next race.

精修会

お問い合わせは☎0120-３０２-８７２

https://keishu-kai.jp/

精修会